

四回生活動報告

「就職活動を通じて」

泉奈美

「日本経済の低迷の影響を受け、今年度の就職戦線は厳しい状況になるだろう」という趣旨の新聞記事、テレビ報道に不安を募らせながら、私達の就職活動はスタートしました。案の定、採用見送りあるいは採用数削減といった企業が数多く見受けられ、まさに不況を実感した気が致します。

就職活動をしていく中で、大いに活用したのがインターネットです。企業からの会社案内パンフレットや就職情報誌に加えて、企業や同大のホームページなど、インターネットを使って情報を得ていた人が多かったです。

うに思います。自分が知りたいと思った時にホームページを開けば、説明会の日程など最新情報を知ることが出来、大変便利でした。

就職活動中は、つらい時や不安に襲われる時もありましたが、今振り返ってみると活動を通じて得たものも数多くあります。自分という人間を追究し、やりたいう仕事、自分に適した仕事を見つけていくということは簡単なようで、実は非常に難しい事だと思いました。よく、「自分の事は自分が一番よく分かっている」と言いますが、その言葉とは裏腹に私も含め多くの人が、

大学生活

佐々敏晴

「大学は宝の山。」これは、私が入部している体育会のクラブの部長の方が言っていた言葉だ。今こうして何かを書こうとすると、この言葉が思い出される。

私にとって大学は本当に宝の山であつたと思う。入学当初は、何をしたいのか特に具体的な希望も持たなかつた。講義に出席して四年間で卒業すればいいと思つてゐた。しかし今ではそんな無駄な四年間を過ごさなくて良かったと思う。私の大学時代は、体育会入部ではぼ決定したと言っても過言ではなく、クラブは正に「宝」の一つだつた。四年間まがりなりにも一つ

の事を成し遂げ、苦勞を重ねた事は自分自身の自信につながるだらうし、何といつても、喜びを分かちあつた友人を数多く得る事ができた。これこそ最高の宝ではないだらうか。古い言い方だが、「同じ釜の飯を食べべた」という表現が適確に當てはまる。クラブではやり残した事が数知れずあるが、はつきりつて四年間では不十分だ。クラブで忙しい分、講義にも集中でき、本當に充実していた。「大学は宝の山。」という言葉を書いて笑つてゐた頃が懐かしい。

「宝」とは別にクラブだけではないだらう。学業も、

自己分析に頭を痛めたこと
 と思います。しかし、その
 経験を通じて得たことは、
 今の私にとって大変意味あ
 るものとなっています。

来年の四月からはゼミ生
 一人一人がそれぞれの道を
 歩んでいくことになりまし
 ますが、新たな出発として頑張
 ていきたいと思ひます。ま
 た、卒業までの残り少ない
 ゼミを、皆で充実させてい
 きたいと思ひています。



サークルもアルバイトでも何でもその人にとっては宝だと思う。要は、自分がそこから何を得るかが問題なのではないか。「宝の山」と言っても、何もなければそれはただの山にすぎない。部長が言っていたのは「自分自身で宝を探索せ。」ということであろう。だからこそ、大学四年間は決して無駄にしてはならない。ゼミの2年間も私にとっては貴重な宝の一つだ。



心のビタミン

藤馬会
伊藤 友隆

試験前になつたら俺のノートを借りに来ていたアイツが何で俺より高給取りなんや？ 私に失恋の愚痴ばかり言つてたあの子が、何故玉

け自尊心の傷つく事もしばしばですが、藤馬会は楽しい。心のビタミンとなる会です。良薬口に苦し。先生御夫妻の御活躍、長命を願いつつ、学園の更なる発展を願うこの共通項の有難さに心酔いしれるひとときは、先程の苦みも明日への良薬となるのです。



OB通信
く北から・南からく

仁壽人

西田 雅俊

私が4回生の時、第1
目が開催されてから、は
藤馬会も今回で13回目
私も第2回目からずっと
回、藤馬会で先生や友と

また、年俸制や裁量労働制、年功序列別賃金廃止等実力主義を積極的に取り入れており、仕事の時間ではなく結果を求められています。そんな時ふとこれからの時代、プロとして生き残っていくには自分を磨くしかないと考え、昨年春、母校大学院の総合政策科学研究

最後に今後の藤馬先生の益々のご健勝と、藤馬会のご諸先輩方々、後輩諸氏のご活躍を心より祈願申しあげます。

(83年度生)

「そんな事してられるかいな。」と言っているあなただけだ、来年はあなたに幸運の原稿用紙が届くかも知れません。日頃からネタ集めをしておいて下さい。でも一度自分の原稿が掲載されるともう一度書いてみたいと思うようになり二度目が待ち遠しくなること請合いです。

(機関紙担当七九年度亀井)

(83年度生)

(機関紙担当七九年度亀井)

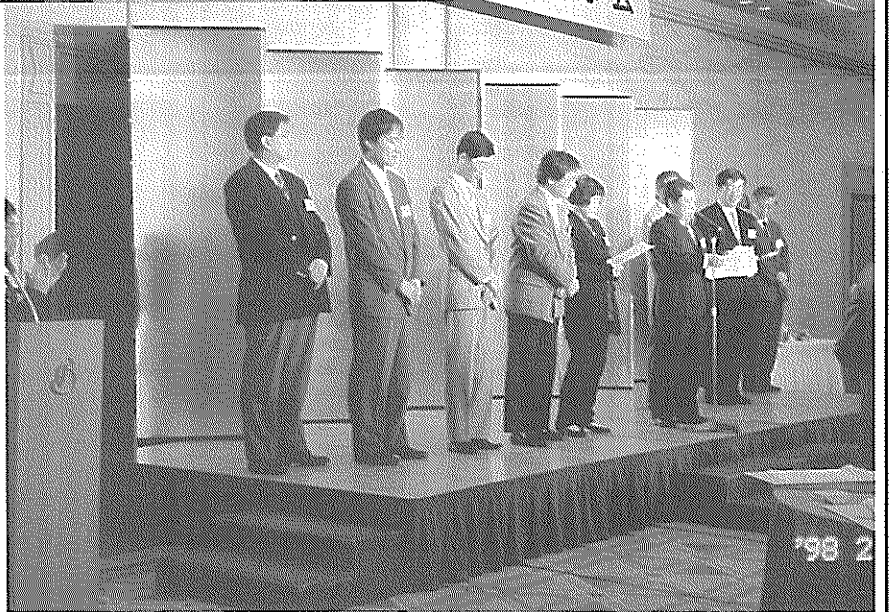
(75年度生)

うのが楽しみで出席させて
頂いております。
現在私は三重県四日市市
に居住しており、コンピュ
ーターカーの営業として多
忙な毎日を送っております。
この業界は非常に動きが早
く、また競争相手も国内メ
ーカーだけでなく海外との競
争に熾烈を極めております。

科の門を叩き、現在2年目を迎えました。なぜ学生の時もっと勉強しておかなかったのかと、先生からお叱りを受けるかもしれませんが、今回入学してみても社会人での経験が非常に重要であり、その経験を基に問題点を抽出して深く掘り下げることで、今の自分に役立つことと

た。何分薬人で、段取りがつかめず、佐々君や三星商事印刷様に大変ご迷惑を掛けてしまいました。が、実際に出来上がってみると嬉しいものです。「みなさあゝん。読んで下さ〜い！」

また、突然の依頼にもかかわらずお忙しい中多くのの方々から原稿を頂き有難う



「今回から
藤馬会は第二期」

藤馬会が、今日のような盛況で一〇月一日、第一三回目を迎えることが出来ようとは、会発足当時、関係者で想像できたのはごく少数だったのではないでしょうか。

のしだいでしょうか。

今回、会の運営の仕事を、総会、名簿、機関誌に分け、それぞれ責任者（副会長制）を置きました。事務局で、全体としての取りまとめをします。

なんとか、頑張っていこうという気持ちはありませんたが。

今回の総会で、藤馬会への現役生としての参加は最後、次回からは、OBだけの総会になります。今、私には、現役生時代一緒にお世話下さった人々の顔が、次々と思い浮かんできます。

第一回から、既に一〇年以上が過ぎ彼ら、彼女らは、社会人として今、中堅層に皆なっています。

藤馬会は今回から第二期に入ります。

現役生の諸君が残してくれた遺産を感謝をもって引きつぎ、藤馬先生の指導のもと藤馬会がますます発展するよう努力するつもりです。よろしくご支援下さい。

副会長（事務局代表）
七〇年度福塚秀彰

同窓会は、同じ教室で教
えを受けた人々が、つどい
相互に親交をあたためる場
その機会を提供するのが世
話人の役割と考えます。藤
馬会をどのような目的に活
用をされるかは、会員の方々

編集

後記

今回初めて「龍のおとし子」を担当させて頂きました。何分業人で、段取りがつかめず、佐々君や三星商事印刷様に大変ご迷惑を掛けてしまいました。が、実際に出来上がってみると嬉しいものです。「みなさあゝん。読んで下さ〜い」

また、突然の依頼にもかかわらずお忙しい中多くの方々から原稿を頂き有難うございました。次回ももっと早くから取り掛かりたいと思います。そして、もっと充実した「龍のおとし子」にして行きたいと思えますのでいろんなアイデア、企画、投稿をお待ちしております。

「そんな事してられるかいな。」と言っているあなた、来年はあなたに幸運の原稿用紙が届くかもしれません。日頃からネタ集めをしておいて下さい。でも一度自分の原稿が掲載されるともう一度書いてみたいと思うようになり二度目が待ち遠しくなること請合いです。

(機関紙担当七九年度亀井)